

## 子どもの成長に必要なもの

出張で10年ほど前の春に淡路島に行きました。今でも車窓から見えた青空や海、一面の玉ねぎ畑の光景は鮮明に記憶に残っていて、それ以来、年に1~2回は淡路島に行くようになりました。全国的にも淡路島の玉ねぎは有名ですが、丁度5月頃は「中生(なかて)」といわれる種類の収穫の時期だそうです。淡路島は年間の平均気温が16度前後、土に海のミネラルが豊富に含まれるという条件も玉ねぎ作りに適しているのだそうです。でも、淡路島の玉ねぎづくりには独自の工程があることはあまり知られていません。一般的な産地では4か月ほどで収穫されるそうですが、淡路島では7か月ほどかけてから収穫し、その上、収穫したあとしばらくは風通しのよい場所で乾燥させ、熟成させてから出荷するそうです。



「環境」が適しているだけでなく、「手間」をしっかりとかけて、辛みのない甘みのある玉ねぎを出荷しているのです。このことを聞いた時、私はまさに人づくりと共通すると思いました。学校にあっても家庭にあっても育てる側は、大人として子どものよき手本(モデル)となるよう学び続け、懸命に生きる姿を見せること(環境)と子どもをしっかりと見守り、励まし、一緒に行動していくこと(手間)の両方を意識していくことが大切だと思います。教育は数か月で出るものではありませんが、将来、子どもたちが大人となった時にその成果は見られると思うと楽しみでもありますが、あらためて責任を感じます。私も親として、教師として日々、誠実にそして精いっぱい目の前の一人一人の児童と関わっていきたいと思います。

「環境」が適しているだけでなく、「手間」をしっかりとかけて、辛みのない甘みのある玉ねぎを出荷しているのです。このことを聞いた時、私はまさに人づくりと共通すると思いました。学校にあっても家庭にあっても育てる側は、大人として子どものよき手本(モデル)となるよう学び続け、懸命に生きる姿を見せること(環境)と子どもをしっかりと見守り、励まし、一緒に行動していくこと(手間)の両方を意識していくことが大切だと思います。教育は数か月で出るものではありませんが、将来、子どもたちが大人となった時にその成果は見られると思うと楽しみでもありますが、あらためて責任を感じます。私も親として、教師として日々、誠実にそして精いっぱい目の前の一人一人の児童と関わっていきたいと思います。

### 見取るとは瞬時に悟ること…

8日は気温が低かったため、始業式を急遽、放送で行うことにしました。放送では子どもたちの顔がみられないため、私は校長の話を終えたあと、急いで各教室を回りました。ある学級で担任が「話が終わろうとしたとき、〇〇さんはピンと姿勢を正していました。次を予測して行動できるなんて素晴らしいですね」と一人の児童の行動を紹介していました。最近、幼児教育では園児の行動を観察し、園児の思いを感じることを“見取る”という言葉で表します。“見取る”とは瞬時に悟ることです。この担任も一人一人の児童の様子をよく観察し、背筋をピンと伸ばした動きを見逃さなかったことは素晴らしいと思いました。子どもたちの表情や行動から、“今、この子はこんな風に思っているのかもしれない”と感じ取れる教師や学校でありたいと思います。